中央手術部

1．スタッフ（2020年４月１日現在）

部　　長（教　　授）　堀江　久永
副 部 長（准 教 授）　五十嵐　孝
医　　員（准 教 授）　鯉沼　広治
（中央材料室　室長）
（学内准教授）　森澤　雄司
（中央材料室　室長補佐）

2．中央手術部の特徴

自治医科大学中央手術部は昭和47年に開設され、平成14年８月新棟竣工とともに新館手術室へ移転し現在に至っている。新館手術室はハイブリッド手術室を含む清浄度クラス100の手術室４室とクラス1000の手術室が11室で構成されている。2006年にとちぎ子ども医療センター内に手術室２室が追加された。さらに2018年新館南棟に鏡視下手術専用室２室、ロボット支援手術専用室１室を含む６室（清浄度クラス100の手術室３室とクラス1000の手術室が３室）追加され、合計23室で運用されている。

（1）診療記録の電子化

平成14年の新棟移転にともない、病棟情報システム構築の第一歩として、まず麻酔記録の電子化が行われ（J-CAN：Jichi-Clinical Advanced Network System）、平成18年からは院内の電子カルテシステム（JUMP：Jichi Medical University Universal Medical Information Program）と連携しており、手術申込み、手術記録、保険情報記録、看護記録などがすべて一元管理となっている。

（2）中央材料室

中央手術部に併設される形で中央材料室を備えており、医師２名（兼任）と専任の主任看護師を配置し、委託業者と共に手術機器の点検、消毒業務を行っている。滅菌業務の増加に伴い2015年より24時間稼働している。

（3）先進医療機器の設置

現代の進化する手術に対応するべく、医療機器を毎年更新、整備している。手術室にはモニター用カメラが設置され手術室内の状況をコントロール・ルームで監視することができ、またこれとは別に手術野の映像をプラズマディスプレイに表示し、臓器移植手術の進行の調整や学生・研修医の教育、学会の発表などに用いられている。2015年より医療ロボット（da Vinci）が導入された。2016年１月からはハイブリッド手術室にて経カテーテル大動脈弁植え込み術（Transcatheter Aortic Valve Implantation:TAVI）が開始された。

3．実績・クリニカルインディケーター

2019年の月別手術件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
予定手術	617	650	654	653	587	704	
緊急手術	151	138	139	156	140	132	
計	768	788	793	809	727	836	
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
予定手術	695	708	650	711	705	691	8025
緊急手術	155	132	143	127	149	168	1730
計	850	840	793	838	854	859	9755

予定手術は8,028件、緊急手術は1,730件、緊急手術の割合は18%であった。

4．2020年の目標・事業計画等

当院の特徴は緊急手術が多いことで毎年総手術件数の約20%を占めている。手術部スタッフの業務負担を増加させずに大学病院らしい難易度の高い新しい手術を増加させることを目標に手術部運営を行っている2018年に病院リニューアルにより新館南棟に鏡視下手術専用室２室、ロボット支援手術専用室１室を含む６室が増室された。新手術室を効率的に運用できるよう手術部スタッフの増員を行い、地域医療の拠点としての救急医療と、大学病院としての高度な医療の提供の両立を図る。